

紋首商會



[紋首商會_下载链接1](#)

著者:夕木 春央

出版者:講談社

出版时间:2019-9-19

装帧:单行本

isbn:9784065170878

昭和・平成のミステリの技法をフル装備し、

乱歩デビュー前の大正時代半ばに転生して本格探偵小説を書いたら……。

そんな夢が現実のものになったかのような極上の逸品。

この作者は、令和のミステリを支える

太い柱の一つになるだろう。

有栖川有栖

分厚い世界に緻密なロジック、第60回メフィスト賞受賞作

☆☆☆

謎が謎を呼ぶ怪死事件。元泥棒が導く真相に瞠目せよ。

和洋入り交じる大正の東京。

秘密結社「絞首商會」との関わりが囁かれる

血液学の大家・村上博士が刺殺された。

不可解な点は3つ。遺体が移動させられていたこと、

鞆の内側がべっとり血に濡れていたこと、そして、

遺族が解決を依頼したのが以前村上邸に盗みに入った元泥棒だったこと――。

頭脳明晰にして見目麗しく、厭世家の元泥棒・蓮野が見つけた

四人の容疑者の共通点は、“事件解決に熱心過ぎる” ことだった――。

作者介绍:

目录:

[絞首商會_下载链接1](#)

标签

夕木春央

梅菲斯特奖

日系推理

评论

整体节奏把握欠佳，中段大量内容显得枯燥期过长，且不断平淡抛出不可解谜面。最后的推理稳妥且具有时代气息，但没有惊艳感。对于大正背景下日本国内国外环境的了解也影响阅读体验。能在2019年以这样一部看起来很像旧时代成熟作家笔下的作品出道，的确有其惊异之处。文风硬，不想再看这位的原版了。（<https://www.douban.com/group/topic/155245491/>）

<http://lockedroom.net/blog/?p=4498>

梅菲斯特奖竟然发给如此中规中矩的小说。故事设定为大正时期的东京，典型的误导猜犯人设置，文笔过于稳健，篇幅大可压缩。结尾动机十分奇特，有几处细节推理有亮点。

本来大正背景和美少年泥棒侦探还是很戳我的，刚开始也还是挺有兴趣的，但是中间就一直在跑跑问问，尤其是都到了一半的地方来了一句謎は謎のままである（所以我前半到底在看什么啊!!!）
最后的结局……emmmmmm总之某个让我很感兴趣的谜底非常迷幻（可能和时代有关） 总之就是有点过于清水了x

[紋首商會 下载链接1](#)

书评

[紋首商會 下载链接1](#)